

令和3年度 第2回越前市環境審議会

日 時 令和3年7月26日(月)
午後3時30分から

場 所 市役所 1階 eホール

会 議 次 第

1 開会

2 審議(報告)事項

(1) 第1回脱炭素社会検討部会の結果について 会議録要旨、資料1、

(2) 意識調査アンケートの途中結果について 資料2

(3) 越前市版スマートシティに向けて 越前市版スマートシティに向けて

(4) 目指すべき環境像、基本方針及び施策案について 資料3

(5) ゼロカーボンシティ宣言について 資料4-1、資料4-2

3 閉会

越前市環境審議会委員名簿

委員：19人(順不同、敬称略)
うち部会5人

規則区分	役 職 名	氏 名	備 考	部 会
優れた識見を有する者 (越前市環境審議会規則 第2条第1項第1号)	福井工業高等専門学校 准教授	奥村 充司	会長	
	仁愛大学 教授 南越駅周辺整備開発ルール等検討委員会 委員	西出 和彦	副会長	○ 部会長
	一般社団法人 武生医師会	河野 陽子		
	えちぜん環境認証機構 元理事 キョーセー(株) 勤務	右原 まゆみ		
越前市議会議員 (越前市環境審議会規則 第2条第1項第2号)	越前市議会議員	清水 一徳		
関係機関から推薦された 者 (越前市環境審議会規則 第2条第1項第3号)	福井県丹南健康福祉センター 環境衛生部長	松浦 與一		
	武生商工会議所 青年部	有定 耕平		
	越前たけふ農業協同組合 代表理事組合長	富田 隆		
	越前市消費者グループ連絡協議会	佐藤 かよ子		
	越前市女性会 副会長	仲村 恵子		
	NPO法人男女平等推進協会えちぜん 主事	横山 光		
	水辺と生き物を守る農家と市民の会 会長	恒本 明勇		
	武生めだか連絡会 会員	磯野 泰子		
	エコラブえちぜん 代表	岡部 巴		
	武生商工会議所 事務局長	藤木 靖夫		○
	北陸電力株式会社 丹南支店 営業担当課長	田淵 敬義		○
	株式会社福井村田製作所 管理部長	大竹 敏一		○
	越前市産業環境部長	奥山 茂夫		○
市民からの公募による者 (越前市環境審議会規則 第2条第1項第4号)	市民公募	吉田 聖子		

会議録要旨

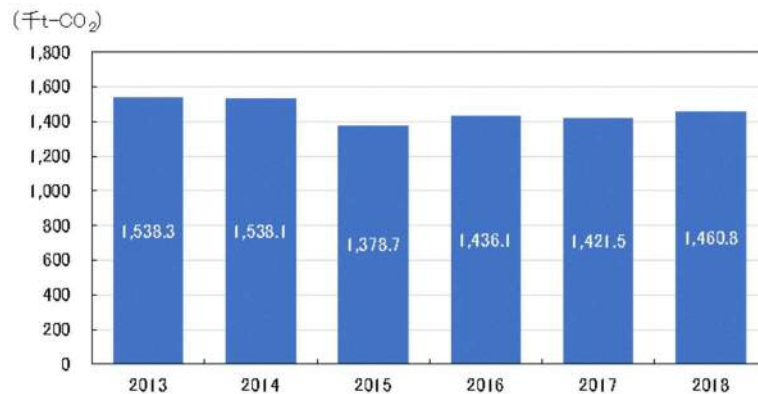
(1) 会議の名称	第1回越前市環境審議会 脱炭素社会検討部会
(2) 開催日時	令和3年7月8日（木曜日）午前10時～正午
(3) 開催場所	越前市役所3階 第1委員会室
(4) 出席委員氏名	西出委員、藤木委員、田淵委員、大竹委員、奥山委員
(5) 欠席委員氏名	欠席者なし
(6) 出席所管課職員職氏名	環境政策課 課長 津田、副課長 山田、主幹 澤田、 主事 宮崎 産業政策課 官民連携プロジェクト推進室 室長 川端、 副課長 丸山
(7) 会議議題	(1) 部会長の選出について (2) 越前市の二酸化炭素排出量について (3) 越前市の二酸化炭素排出削減目標（案）について (4) 脱炭素社会実現に向けた取組みについて (5) 北陸新幹線駅周辺でのスマートシティ形成も見据えた再生可能エネルギーの利用促進について（一部非公開）
(8) 傍聴者の数	1人
(9) 会議資料の名称	(2) 【資料1】越前市の二酸化炭素排出量について (3) 【資料2】越前市の二酸化炭素排出削減目標（案）について (4) 【資料3】脱炭素社会実現に向けた取組みについて (5) 越前市版スマートシティに向けて
(10) 会議の内容の要旨	(1) 部会長の選出について事務局からの推薦を提案し、承認された。 事務局より、本審議会での在任期間等を考慮し、西出委員を推薦したところ、承認された。 (2) 越前市の二酸化炭素排出量について、事務局より説明した。

	<p>(3) 越前市の二酸化炭素排出削減目標(案)について事務局より2案を説明の上、案2の採用を提案し、承認された。</p> <p>(4) 脱炭素社会実現に向けた取組みについて事務局より、再生可能エネルギー推進及び地球温暖化防止に関して市民・事業者・行政それぞれの取組み案を提案し、承認された。</p> <p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行動目標として示せるよう、各取組み案での削減量をシミュレーションしてはどうか。 <p>(5) 北陸新幹線駅周辺でのスマートシティ形成も見据えた再生可能エネルギーの利用促進について事務局より RE100 エリアを北陸新幹線駅周辺に設置することを提案し、越前市版スマートシティ&フォレストシティについて概要を説明した。</p> <p>以下、非公開とし、各部会委員より、各所属での現状・今後の取組み等について報告があり、これらについて意見や質疑応答を行った。</p> <p>《意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小、零細企業はコロナ禍により大変厳しい状況にあり、事業者の取組み案にあるような設備導入は、元々の設備更新サイクルの兼ね合いもあり、難しいと考える。 <p>また、導入後の削減効果やこれから整備されると思われる支援策について、簡単に分かりやすく示していただきたい。</p>
(11) その他	—

越前市環境審議会 脱炭素社会検討部会 資料概要

1 二酸化炭素総排出量の推移

本市の 2013（平成 25）年度の二酸化炭素総排出量は、約 1,538.3 千 t-CO₂、2018（平成 30）年度の二酸化炭素総排出量は、約 1,460.8 千 t-CO₂となっています。

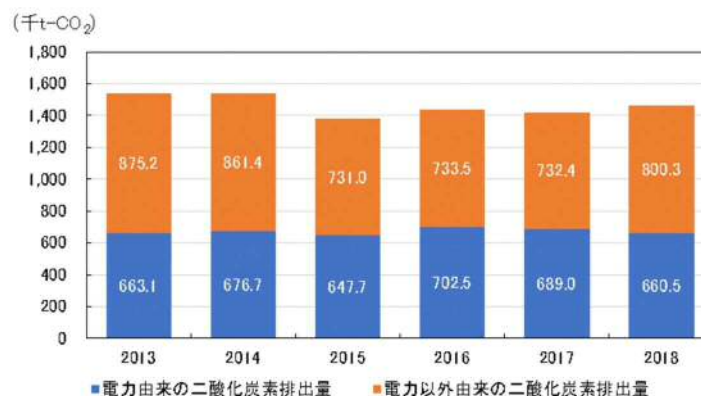


【越前市の二酸化炭素排出量の推移】

※算定に使用するデータの一部分が2年遅れでしか公表されないため、算定の最新年度は2018（平成30）年度となっています。



【越前市の部門別二酸化炭素排出量の推移】



【越前市の二酸化炭素排出量の内訳】

4 脱炭素社会実現に向けた取組について

本市が掲げる下記の削減目標の達成および脱炭素社会の実現には、市民、事業者、行政が、それぞれの立場で役割を果たしつつ、新たな取組みにも挑戦する必要があります。

項目	単位	基準値 (2018:H30)	計画目標 (2026:R8)	目標 (2030:R12)
二酸化炭素総排出量	千t-CO ₂	1,460.8	1037.2 (-29%)	830.7 (2013年度比-46%)

削減目標を達成し、さらにその先にある2050年二酸化炭素排出実質ゼロに向け、再生可能エネルギー推進と地球温暖化防止の面から検討した具体的な取組み（案）について、次のとおり提案します。

1 再生可能エネルギー推進に関する取組み（案）

市民の取組み

- ・再生可能エネルギー設備及び蓄電池の導入に努める。
- ・再生可能エネルギー電気の購入を検討する。
- ・新築、改築時にZEH[※]への対応を検討する。
- ・木質チップやペレットを燃料とするストーブの購入を検討する。
- ・再生可能エネルギーに関する情報を入手・活用に努める。

※ZEH: net Zero Energy House の略語。住宅の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現し、太陽光などでエネルギーを創り、年間に消費する正味(ネット)のエネルギーをゼロにする住宅のこと。

事業者の取組み

- ・再生可能エネルギー設備及び蓄電池の導入に努める。
- ・再生可能エネルギー電気の購入に努める。
- ・PPA^{※1}の実施を検討する。
- ・新築、改築時にZEB^{※2}への対応を検討する。
- ・木質チップやペレットを燃料とするストーブやボイラーの購入を検討する。
- ・再生可能エネルギーに関する情報を入手し、業務効率化に努める。

※1 PPA: Power Purchase Agreement の略語。施設所有者が提供する敷地や屋根などに、太陽光発電設備の所有・管理を行う会社が設置した太陽光発電システムで発電した電力を、その施設の電力使用者へ有償提供する仕組み。

※2 ZEB: net Zero Energy Building の略語。建物の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現し、太陽光などでエネルギーを創り、年間に消費する正味(ネット)のエネルギーをゼロにする建築物のこと。

行政の取組み

- ・公共施設への太陽光発電設備設置を促進する。
- ・再生可能エネルギー電気の購入を検討する。
- ・市民の太陽光発電設備及び蓄電池の導入を支援する。
- ・下水汚泥消化ガスの活用を進める。
- ・再生可能エネルギー及び蓄電池に関する情報提供する。
- ・RE100 エリア設置について検討する。

2 地球温暖化防止に関する取組み（案）

市民の取組み

- ・国が提唱する運動「COOL CHOICE^{*1}」を実践する。
- ・家電の買換え、購入時に高効率型や省エネ型家電の選択に努める。
- ・住宅の断熱化を検討する。
- ・「うちエコ診断^{*2}」などを実施し、対策の実践に努める。
- ・住宅の電力契約について、より低炭素な電力への切り替えを検討する。
- ・公共交通機関の利用や自転車や徒歩での移動を心がける。
- ・電気自動車、燃料電池自動車の導入を検討する。
- ・自動車利用時はエコドライブを心がける。

※1 COOL CHOICE: CO2などの温室効果ガスの排出量削減のために、脱炭素社会づくりに貢献する「製品への買換え」、「サービスの利用」、「ライフスタイルの選択」など地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」をしていこうという取組。

※2 うちエコ診断: 受診される家庭の年間エネルギー使用量や光熱費などの情報をもとに、住まいの気候やライフスタイルに合わせて無理なくできる省CO2・省エネ対策を提案する診断のこと。WEB診断も可。

事業者の取組み

- ・国が提唱する運動「COOL CHOICE」を実践する。
- ・設備の買換え、購入時に省エネ型設備を導入、活用する。
- ・高効率ヒートポンプ^{*1}やコージェネレーション^{*2}などエネルギー効率が高い設備を導入、活用を検討する。
- ・省エネ診断などを実施し、対策の実践に努める。
- ・事業活動のRE100化（再エネ100宣言 RE Action^{*3}など）を検討する。
- ・ISO14001、KES^{*4}、エコアクション21^{*5}などの取得を検討する。
- ・電力契約について、より低炭素な電力への切り替えを検討する。
- ・出張の際は公共交通機関の利用を心がける。
- ・電気自動車、燃料電池自動車の導入を検討する。
- ・自動車利用時はエコドライブを心がける。
- ・製品等の配送距離を短くし、CO2排出量削減に努める。

※1 ヒートポンプ: 少ない投入エネルギーで、空気中などから熱をかき集めて、大きな熱エネルギーとして利用する技術のこと。

※2 コージェネレーション: ガスを燃料として発電し、排熱を回収して給湯に利用するなど、1つのエネルギー源から電気と熱などを同時に供給する、エネルギーの利用効率が高いシステムのこと。

※3 再エネ100宣言 RE Action: 企業等の団体が、使用電力を100%再生可能エネルギーに転換する意思と行動を示し、再エネ100%利用を促進する枠組み。

※4 KES: Kyoto Environmental management System の略。京都議定書の発祥地である京都から発信された「環境マネジメントシステム」の規格。ISOと比べ、「シンプル」で「低コスト」であり、取り組みやすい環境マネジメントシステム。

※5 エコアクション21: 環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステムで、中小企業が行う環境にやさしい経営の取組みに対して審査し、認証を与える制度。

行政の取組み

- ・地球温暖化防止につながる情報を収集し、発信する。
- ・国が提唱する運動「COOL CHOICE」を普及啓発する。
- ・市役所も一事業者として、取組を検討する。
- ・電気自動車、燃料電池自動車の導入及び導入支援を進める。
- ・未利用資源（水素エネルギー）の調査・研究を行う。

意識調査アンケートの途中結果について

I 調査の概要

1 調査の目的

- ・本調査は、市民・事業者・高校生を対象に、環境に関する意識調査を実施し、地域で解決を目指すための課題を洗い出すとともに、今後の環境施策推進の基礎資料とすることを目的に実施しました。

2 調査の概要

- ・調査概要は、以下のとおりです。

項目		市民		事業者		高校生
調査対象		市内に住む 18 歳以上の市民		市内の事業者		武生高校・武生東高校の学生
調査時期		令和3年7月5日～令和3年7月16日				
配布数		1,000 通		200 通		60 通
回収数※	紙	203 通	266 通	5 通	64 通	—
	Web	63 通		59 通		60 通
回答率※		26.6%		32.0%		100%

※7月12日（月）末時点での回収数・回答率

3 集計表記について

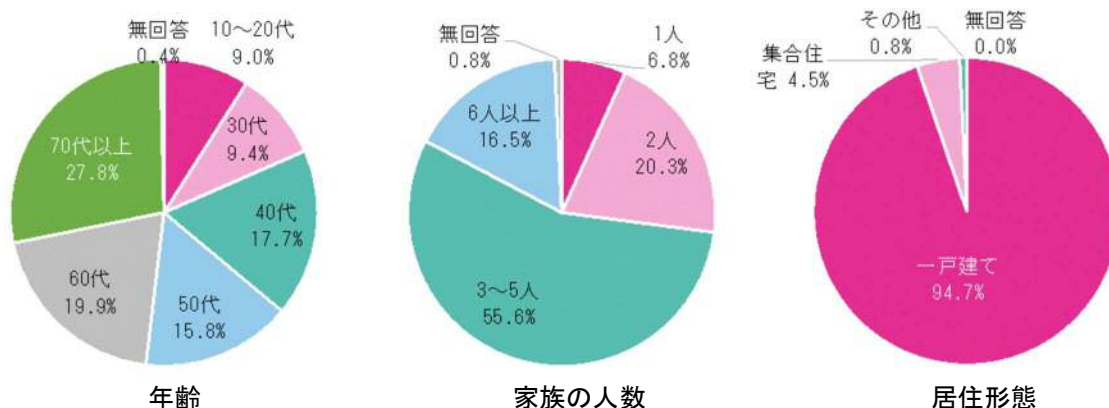
- ・図表に示されている割合は、四捨五入して表記しているため、割合の合計が 100% にならないことがあります。
- ・本文や図表等の選択肢や回答の表記は、場合により語句を簡略化しています。

II 調査結果概要

●市民● ※設問数が多いため、設問の一部を抜粋しています

1 回答者の属性

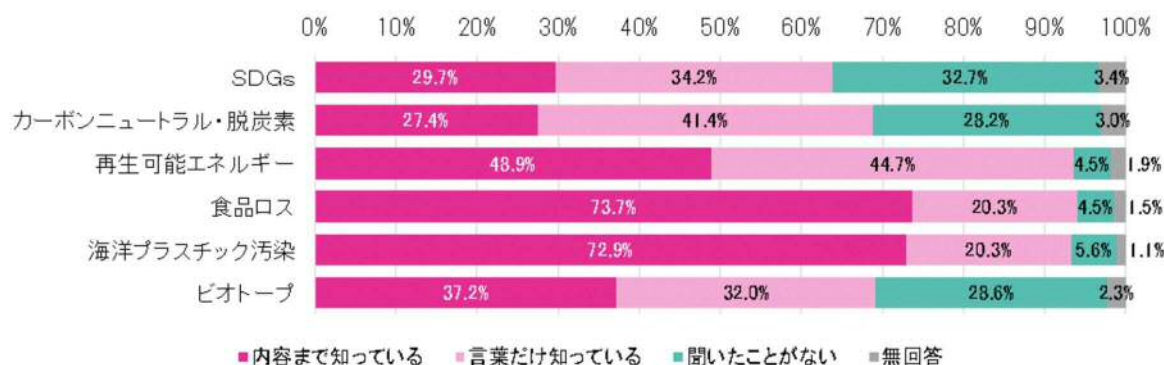
年齢・家族の人数・居住形態



- ・年齢は、「70代以上」が最も高く27.8%で、次いで「60代」が19.9%と高くなっています。
- ・家族の人数は、「3~5人」が最も高く55.6%で、次いで「2人」が20.3%と高くなっています。
- ・居住形態は、「一戸建て」が大半を占めています。

2 環境に対する考えや意識

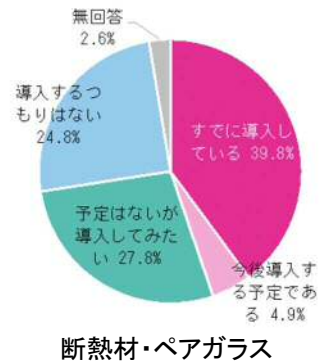
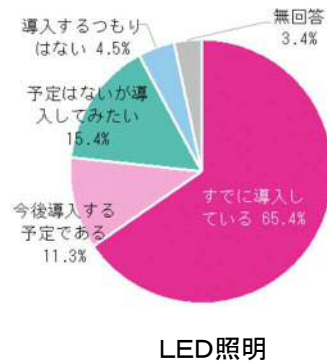
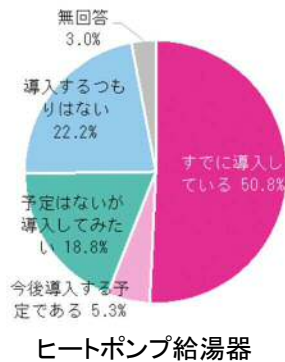
(1) 環境用語の認知度



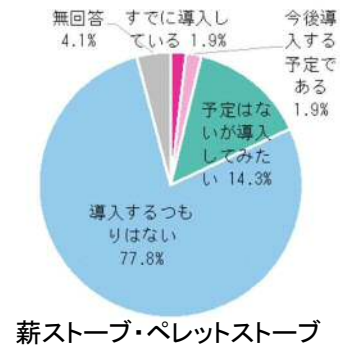
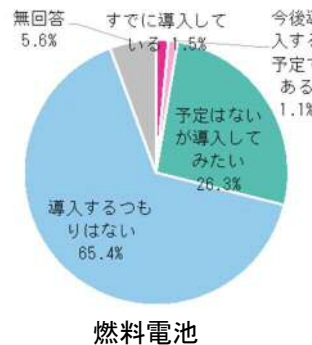
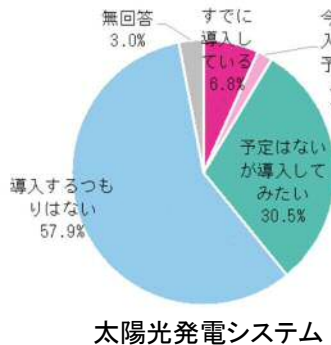
- ・「内容まで知っている」の割合が高い環境用語は「食品ロス」と「海洋プラスチック汚染」で、回答者の約7割を占めています。
- ・「聞いたことがない」の割合が高い環境用語は「SDGs」と「カーボンニュートラル・脱炭素」で、回答者の約3割を占めています。

3 地球温暖化対策について

(1) 地球温暖化対策につながる設備の導入状況 《「すでに導入している」の割合が高い上位3設備》

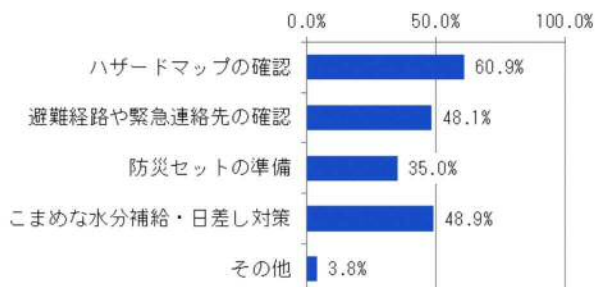


《「導入するつもりはない」の割合が高い上位3設備》



- ・「すでに導入している」の割合が高い設備は、「ヒートポンプ給湯器」「LED照明」「断熱材・ペアガラス」となっています。
- ・「導入するつもりはない」の割合が高い設備は、「太陽光発電システム」「燃料電池」「薪ストーブ・ペレットストーブ」となっています。

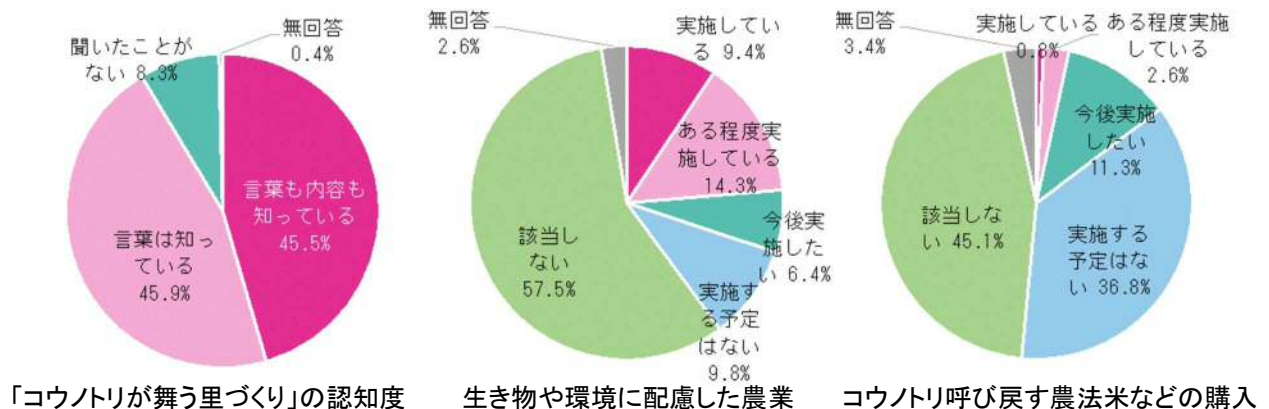
(2) 災害への備えについて（複数回答）



- ・災害への備えは、「ハザードマップの確認」が最も高く60.9%で、次いで「こまめな水分補給・日差し対策」が48.9%と高くなっています。

4 自然環境の保全について

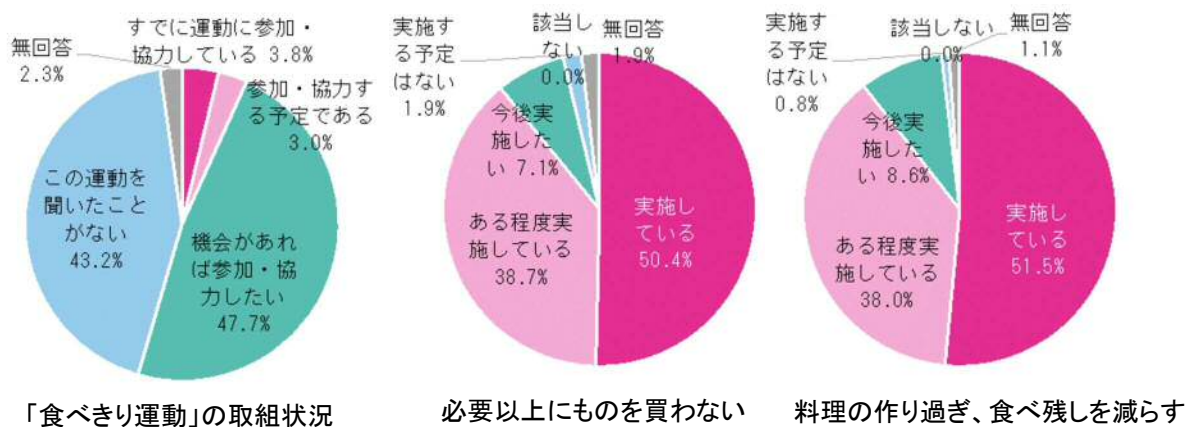
(1) 「コウノトリが舞う里づくり」に関する取組について



- ・「コウノトリが舞う里づくり」の認知度は、「言葉は知っている」が45.9%と高く、次いで「言葉も内容も知っている」が45.5%と高くなっています。
- ・「コウノトリが舞う里づくり」に関連する取組「生き物や環境に配慮した農業」「コウノトリ呼び戻す農法米などの購入」について、「実施している」の割合はそれぞれ9.4%と0.8%となっています。

5 ごみ減量化について

(1) 「おいしいえちぜん食べきり運動」に関する取組について

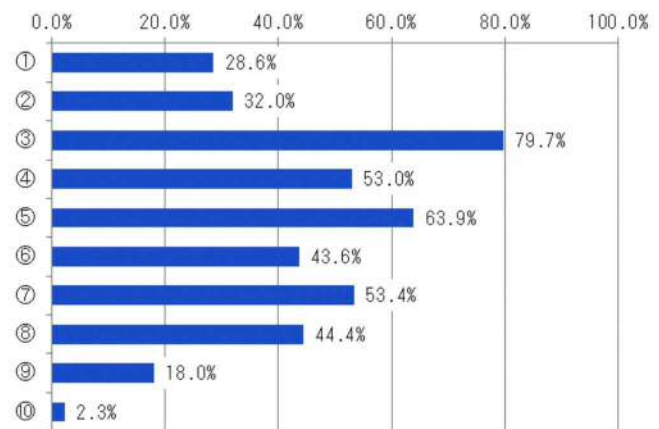


- ・「おいしいえちぜん食べきり運動」の取組状況は、「機会があれば参加・協力したい」が47.7%と高く、次いで「この運動を聞いたことがない」が43.2%となっています。
- ・関連する取組「必要以上にものを買わない」「料理の作り過ぎ、食べ残しを減らす」について、「実施している」の割合が回答者の半数を占めています。

6 市全体の環境について

(1) 越前市の将来イメージに近いもの（複数回答）

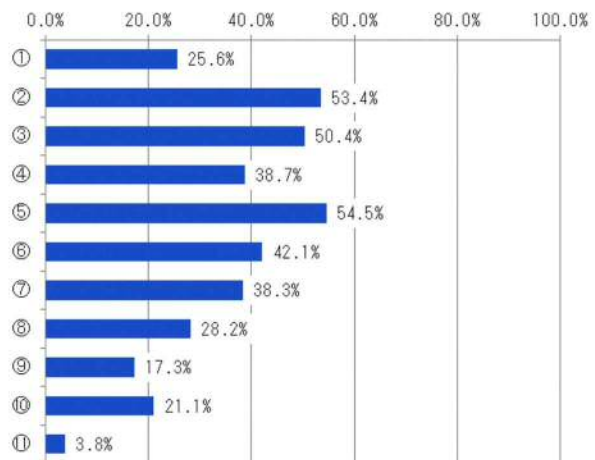
選択肢	回答者数	割合(%)
① 脱炭素社会に貢献するまち	76	28.6%
② 再生可能エネルギーの利用が盛んなまち	85	32.0%
③ 空気・水のおいしいまち	212	79.7%
④ 静かで落ち着いた雰囲気のあるまち	141	53.0%
⑤ 豊かな自然を大切にするまち	170	63.9%
⑥ コウノトリなどの生きものと共生するまち	116	43.6%
⑦ 歴史・伝統を大切にするまち	142	53.4%
⑧ 資源リサイクルの盛んなごみの少ないまち	118	44.4%
⑨ 市民が主体となる環境保全等のボランティア活動の盛んなまち	48	18.0%
⑩ その他	6	2.3%



・越前市の将来イメージは、「③空気・水のおいしいまち」が最も高く79.7%で、次いで「⑤豊かな自然を大切にするまち」が63.9%と高くなっています。

(2) 市に重点的に進めてほしい施策（複数回答）

選択肢	回答者数	割合(%)
① 脱炭素社会の構築	68	25.6%
② 生活環境を守る	142	53.4%
③ 美しい街並み景観の誘導	134	50.4%
④ 歴史・伝統文化の保全	103	38.7%
⑤ 豊かな自然環境の保全	145	54.5%
⑥ 不法投棄の取り締まりの強化	112	42.1%
⑦ ごみの減量化とリサイクルに向けた取組の強化	102	38.3%
⑧ 環境教育・環境学習の推進	75	28.2%
⑨ 環境に関する情報の周知	46	17.3%
⑩ 環境保全活動に取り組む人材の育成	56	21.1%
⑪ その他	10	3.8%

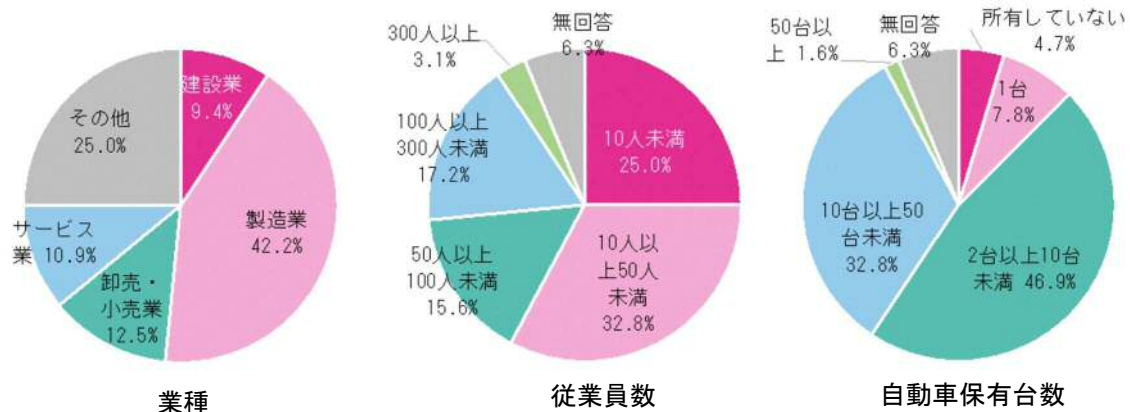


・市に重点的に進めてほしい施策は、「⑤豊かな自然環境の保全」が最も高く54.5%で、次いで「②生活環境を守る」が53.4%と高くなっています。

●事業者● ※設問数が多いため、設問の一部を抜粋しています

1 回答者の属性

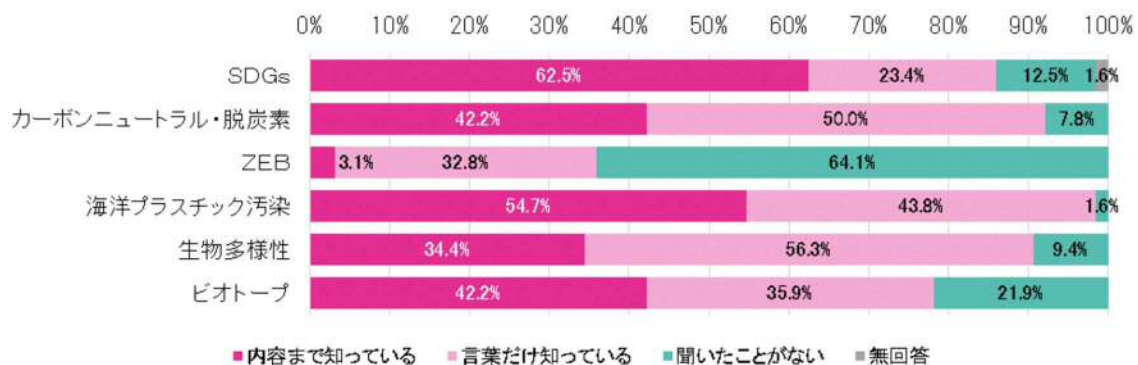
業種・従業員数・自動車保有台数



- ・業種は、その他を除いて「製造業」が最も高く 42.2%で、次いで「卸売・小売業」が 12.5%と高くなっています。
- ・従業員数は、「10人以上50人未満」が最も高く 32.8%で、次いで「10人未満」が 25.0%と高くなっています。
- ・自動車保有台数は、「2台以上10台未満」が最も高く 46.9%で、次いで「10台以上50台未満」が 32.8%と高くなっています。

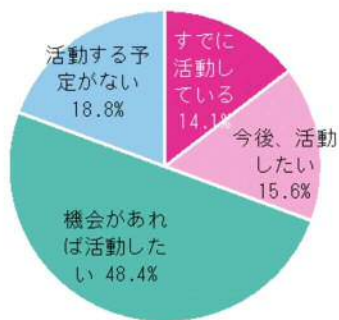
2 環境に対する考えや意識

(1) 環境用語の認知度



- ・「内容まで知っている」の割合が高い環境用語は「SDGs」と「海洋プラスチック汚染」で、回答者の約半数を占めています。
- ・「聞いたことがない」の割合が高い環境用語は「ZEB」で、回答者の約6割を占めています。

(2) 他の団体等と連携した環境保全活動について



他の団体等との連携した活動状況



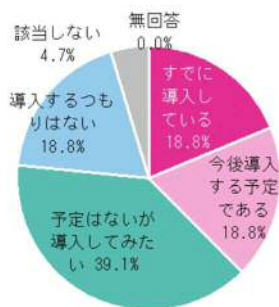
連携している団体(複数回答)

- ・他の団体等と連携した環境保全活動について、「すでに活動している」の割合は14.1%となっています。
- ・連携している団体としては、「県や市などの自治体」が半数を占めています。
- ・活動している内容としては、「森林保全活動」や「廃棄物やリサイクル活動」が多くなっています。

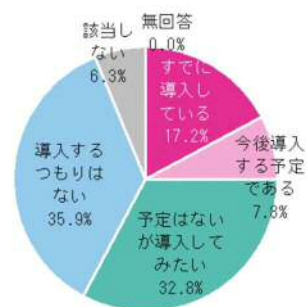
3 地球温暖化対策について

(1) 地球温暖化対策につながる設備の導入状況

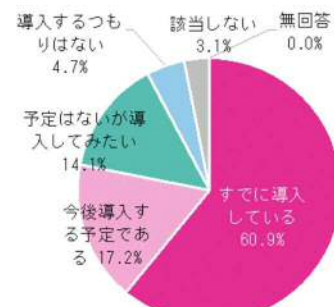
《「すでに導入している」の割合が高い上位3設備》



省エネ型業務用機器

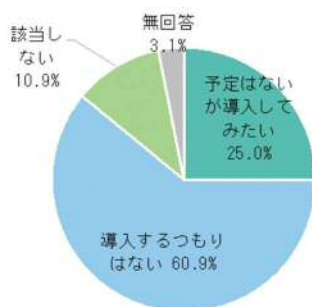


外壁や屋根の断熱



LED照明

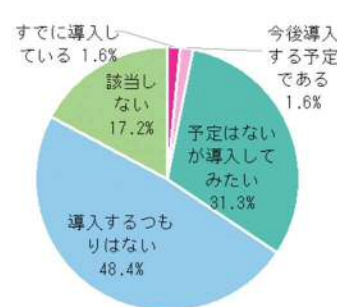
《「導入するつもりはない」の割合が高い上位3設備》



コージェネレーションシステム



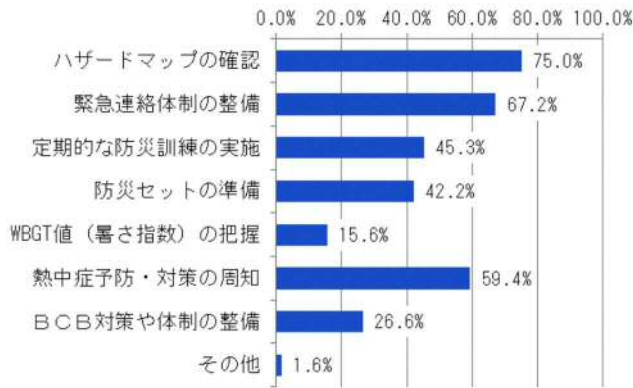
高性能ボイラーなどの高効率機器



BEMS

- ・「すでに導入している」の割合が高い設備は、「省エネ型業務用機器」「外壁や屋根の断熱」「LED照明」となっています。
- ・「導入するつもりはない」の割合が高い設備は、「コージェネレーションシステム」「高性能ボイラーなどの高効率機器」「BEMS」となっています。

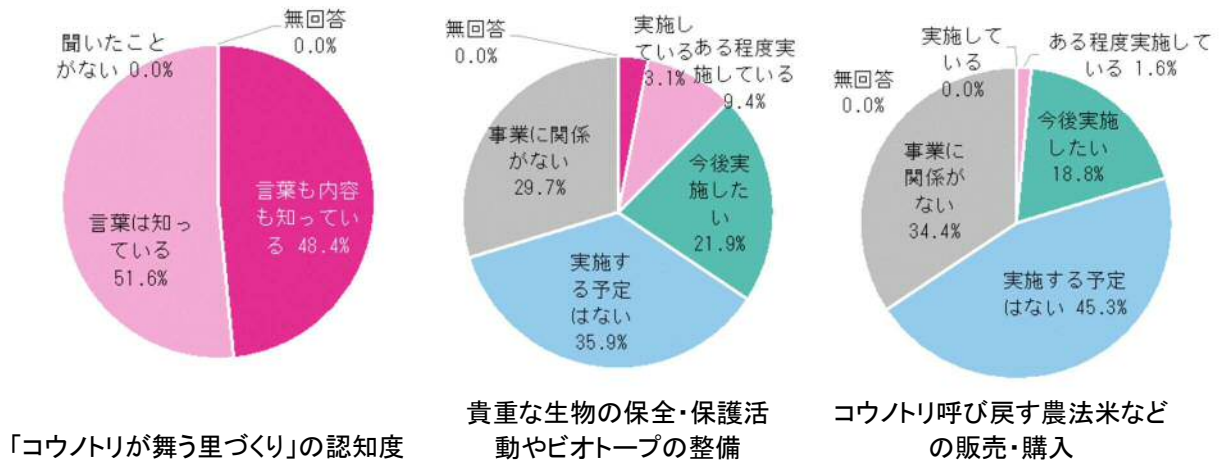
(2) 災害への備えについて (複数回答)



- ・災害への備えは、「ハザードマップの確認」が最も高く75.0%で、次いで「緊急連絡体制の整備」が67.2%と高くなっています。

4 自然環境の保全について

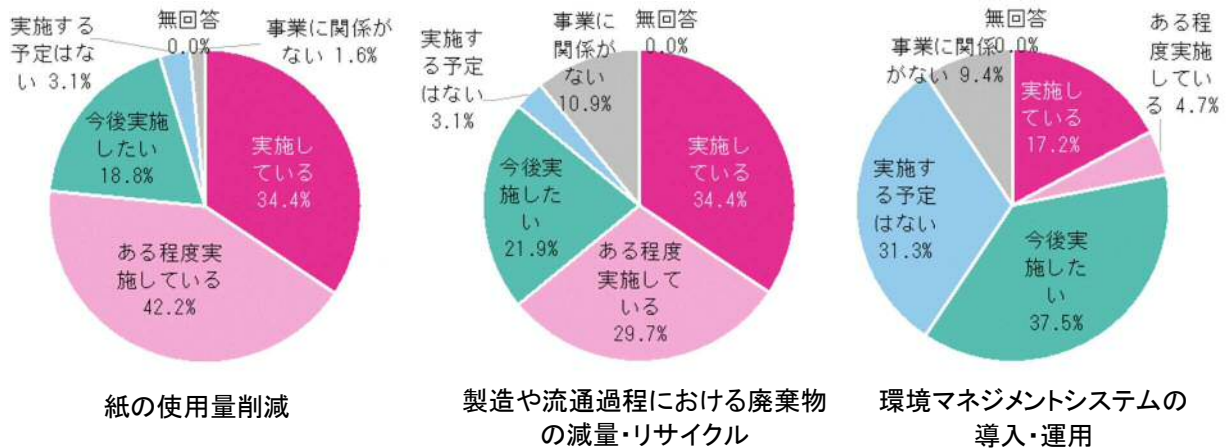
(1) 「コウノトリが舞う里づくり」に関する取組について



- ・「コウノトリが舞う里づくり」の認知度は、「言葉は知っている」が51.6%と高く、次いで「言葉も内容も知っている」が48.4%と高くなっています。
- ・「コウノトリが舞う里づくり」に関連する取組「貴重な生物の保全・保護活動やビオトープの整備」「コウノトリ呼び戻す農法米などの販売・購入」について、「実施している」の割合は低くなっています。

5 ごみ減量化・リサイクルについて

(1) ごみの減量化に関する取組について



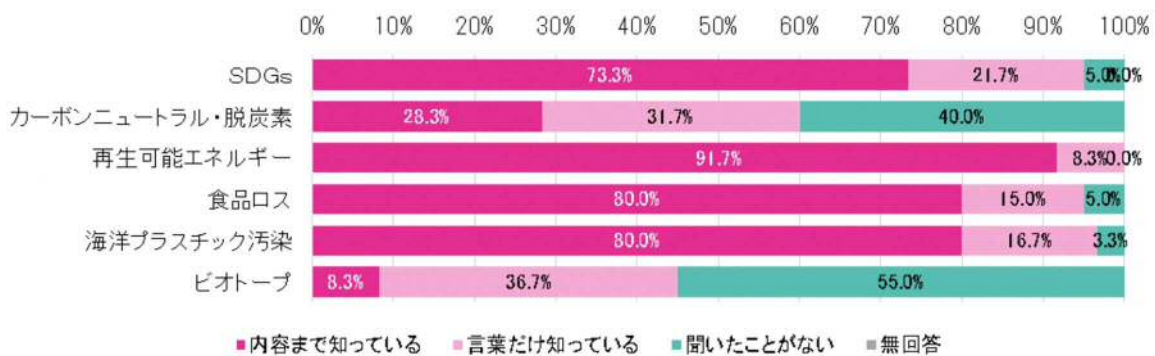
- ・「実施している」の割合が高いのは、「紙の使用量削減」「製造や流通過程における廃棄物の減量・リサイクル」となっています。
- ・一方、「実施する予定はない」の割合が高いのは「環境マネジメントシステムの導入・運用」となっています。

参考 1)

●学生● ※設問数が多いため、設問の一部を抜粋しています

1 環境に対する考えや意識

(1) 環境用語の認知度

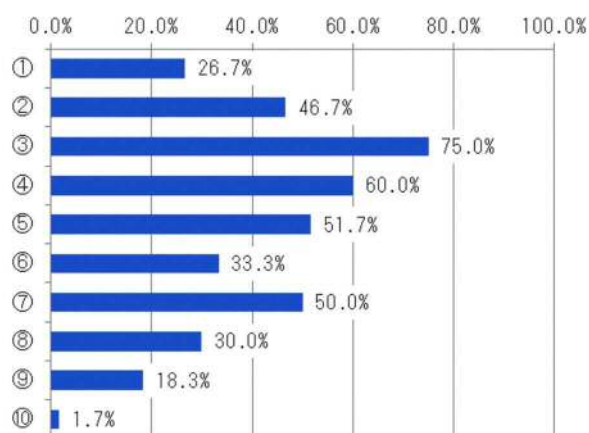


- ・「カーボンニュートラル・脱炭素」「ビオトープ」を除く環境用語は「内容まで知っている」が大半を占めています。
- ・「聞いたことがない」の割合が高い環境用語は「ビオトープ」で、回答者の半数を占めています。

2 市全体の環境について

(1) 越前市の将来イメージに近いもの（複数回答）

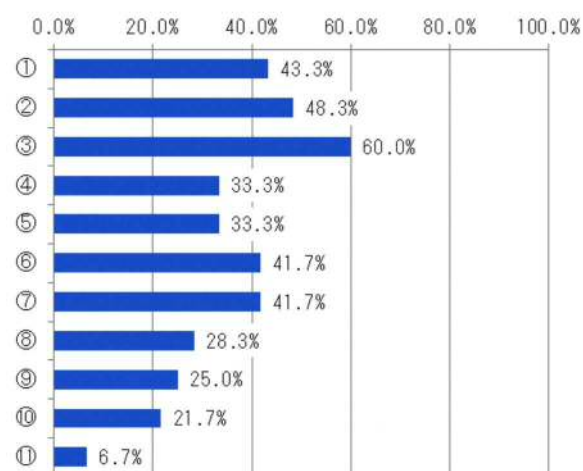
選択肢	回答者数	割合(%)
① 脱炭素社会に貢献するまち	16	26.7%
② 再生可能エネルギーの利用が盛んなまち	28	46.7%
③ 空気・水のおいしいまち	45	75.0%
④ 静かで落ち着いた雰囲気のあるまち	36	60.0%
⑤ 豊かな自然を大切にするまち	31	51.7%
⑥ コウノトリなどの生きものと共生するまち	20	33.3%
⑦ 歴史・伝統を大切にするまち	30	50.0%
⑧ 資源リサイクルの盛んなごみの少ないまち	18	30.0%
⑨ 市民が主体となる環境保全等のボランティア活動の盛んなまち	11	18.3%
⑩ その他	1	1.7%



・越前市の将来イメージは、「③空気・水のおいしいまち」が最も高く75.0%で、次いで「④静かで落ち着いた雰囲気のあるまち」が60.0%と高くなっています。

(2) 市に重点的に進めてほしい施策（複数回答）

選択肢	回答者数	割合(%)
① 脱炭素社会の構築	26	43.3%
② 生活環境を守る	29	48.3%
③ 美しい街並み景観の誘導	36	60.0%
④ 歴史・伝統文化の保全	20	33.3%
⑤ 豊かな自然環境の保全	20	33.3%
⑥ 不法投棄の取り締まりの強化	25	41.7%
⑦ ごみの減量化とリサイクルに向けた取組の強化	25	41.7%
⑧ 環境教育・環境学習の推進	17	28.3%
⑨ 環境に関する情報の周知	15	25.0%
⑩ 環境保全活動に取り組む人材の育成	13	21.7%
⑪ その他	4	6.7%



・市に重点的に進めてほしい施策は、「③美しい街並み景観の誘導」が最も高く60.0%で、次いで「②生活環境を守る」が48.3%と高くなっています。

参考2)

●環境分野でイメージする言葉やキャッチフレーズについて●

- ・環境基本計画の基本方針になっている5つの環境分野について、比較的多く挙げられていたキーワードを整理しました。

《地球環境》

地球（と共存・なかよし・やさしい）、エコ、脱炭素、温暖化、クリーン（エネルギー） など

《生活環境》

安心安全（安心・安全・実感できる）、きれい（なまち）、不法投棄、ポイ捨て など

《自然環境》

コウノトリ（えっちゃん）、（豊かな）自然、自然環境、生き物 など

《資源循環》

ごみの分別、食品ロス、リサイクル、ごみ（の減量・少ない） など

《環境共育》

みんな（学ぶ・取り組む）、環境共育、人材育成、環境学習 など

越前市版スマートシティに向けて ～官民連携（PPP）でのまちづくり～



令和3年6月



「モノづくりのまち」越前市

平成17年の合併以降
製造品出荷額等は約1.6倍に増加し、
県全体の約3割を占める

製造品出荷額等は
北陸で2位を誇る
(人口一人当たりは1位)

本市の製造品出荷額等の推移
(合併時と直近との比較)



北陸主要都市の
製造品出荷額等 比較
(令和元年)

	製造品出荷額等 億円	人口一人当たり 万円
富山市 (富山県)	13,814	333
越前市	6,488	809
白山市 (石川県)	6,245	567
金沢市 (石川県)	5,767	125
小松市 (石川県)	5,715	538
射水市 (富山県)	5,283	584
福井市 (福井県)	4,587	175
高岡市 (富山県)	4,201	252
坂井市 (福井県)	3,038	344

出典：R2工業統計調査（速報値）

新幹線駅周辺整備に向けた取り組み



3

社会を取り巻く世界的潮流



これからの産業活性化に向けて

本市がモノづくりのまちとして生き残るために、世界的な潮流である脱炭素化やDX等に取り組む企業・産業が集積した最先端の拠点をつくり、市内の全産業への展開を目指す。

4

越前市オープンイノベーション推進ビジョン

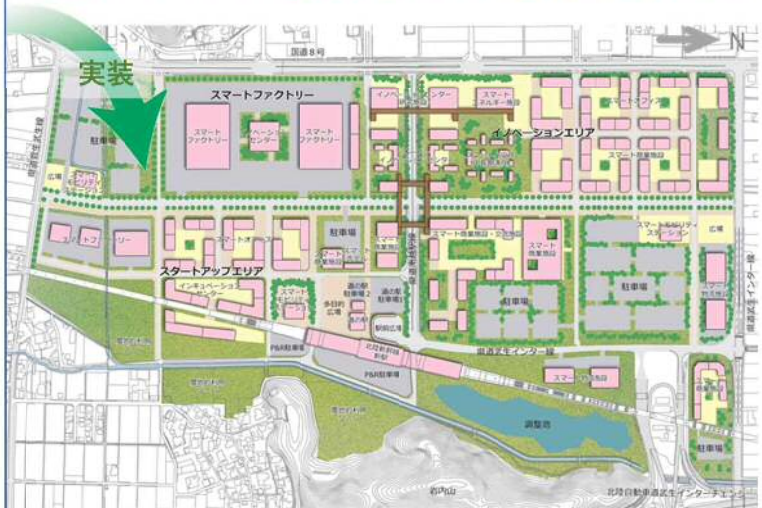
オープンイノベーション（企業等の連携）を推進し、成長領域に取り組む企業の集積を図り、それを起点とした越前市版スマートシティの実現を目指す。



イメージ図（先端企業や商業施設などの配置例）

※ビジョンの中で想定した機能や施設を、未来創造ゾーンを中心に配置した例（イメージ）です。
無数にあるパターンの一部としてご理解ください。

※フォレストシティとして、緑地等の配置を重視しています。



官民連携（PPP）プロジェクトの進め方



1.市場調査（対話）の総括

- ①参加事業者3社から高い関心が示され、うち2社からは産業・商業双方の集積を図ることを含め、事業参画の検討意向が示されました。
- ②エリア全体の一体開発が望ましいという見解を示し、複数の連携企業候補との具体的な事業展開を検討している事業者が1社ありました。

2.公募の状況

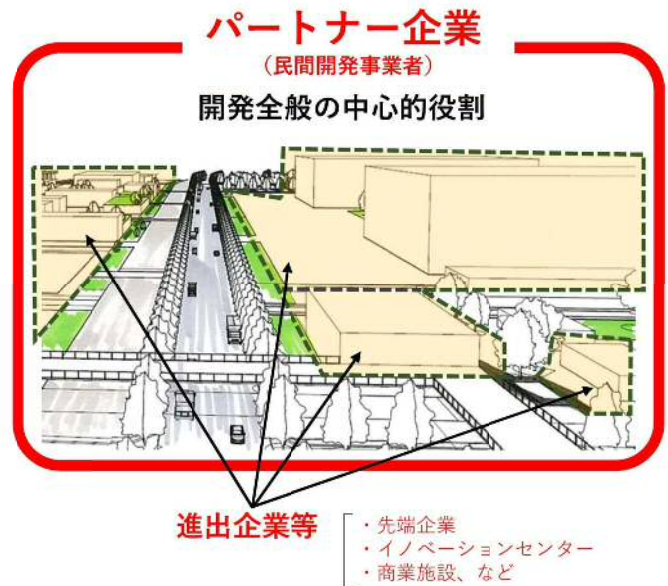
参加表明事業者数：1社

官民連携（PPP）プロジェクトの推進体制

官民連携のイメージ



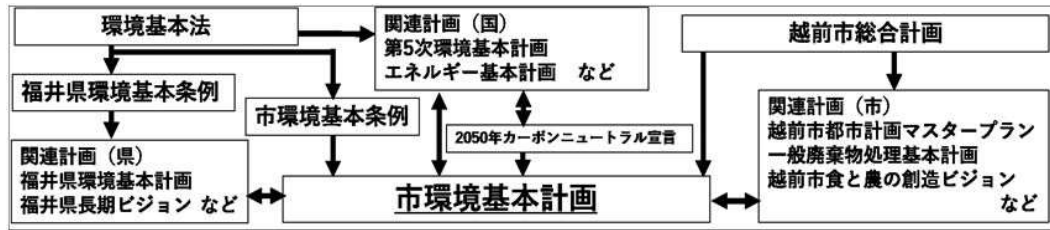
開発における役割



協定締結後は、市とパートナー企業は、地元との協議を行い、意見等を確認しながら、事業実施計画書を策定

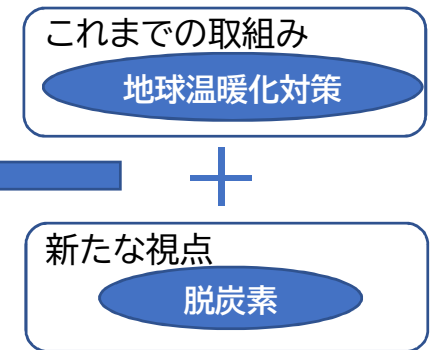
第1章 計画の基本的事項

- ①基本事項 計画の背景・目的・位置付け
持続可能な開発目標について(SDGsとの関連付け)
- ②計画の対象地域 越前市全域
- ③計画の期間 令和4年度～8年度までの5年間
- ④市の概要 基礎情報(位置、人口、産業動態など)の記載



第2章 計画の理念と基本方針

- ①基本理念 市環境基本条例に掲げる基本理念(地球環境の保全、健全な環境の維持、環境の適切な維持、自然環境の保全、文化環境の保全・活用)
- ②目指す環境像 **水きらめき 緑そよぐ 地球にやさしいまち 越前市**
- ③環境像の実現に向けて
 - ・計画の体系(5つの基本方針)
 - 基本方針1 **脱炭素社会の実現に向けた都市づくり**
 - 基本方針2 **水や空気がきれいな安心安全が実感できるまちづくり**
 - 基本方針3 **コウノトリが舞う自然豊かなまちづくり**
 - 基本方針4 **資源が循環する ごみの少ない都市づくり**
 - 基本方針5 **環境共育で環境を守り育むまちづくり**



第3章 施策の展開

・5つの基本方針に対する現状や課題、施策、具体的な取組み、指標(数値目標)を提示。
 ・具体的な取組みとして、市民・事業者・行政(市)に分け、それぞれが取組むべき事項を記載。

- 1) **脱炭素社会の実現に向けた都市づくり**
 【施策1】再生可能エネルギーの普及推進
 【施策2】地球温暖化防止に向けた取組みの推進

重点項目

- 2) **水や空気がきれいな 安心安全が実感できるまちづくり**
 【施策3】生活環境の保全
 【施策4】廃棄物の適正処理の推進



- 3) **コウノトリが舞う自然豊かなまちづくり**
 【施策5】生物多様性の保全
 【施策6】環境調和型農業の推進



- 4) **資源が循環する ごみの少ない都市づくり**
 【施策7】3Rの推進
 【施策8】食品ロス削減、使い捨てプラスチックごみ対策



- 5) **環境共育で環境を守り育むまちづくり**
 【施策9】人材育成の推進
 【施策10】環境保全団体との連携・協働の促進



A) ゼロカーボンシティ宣言

・2050年までに二酸化炭素の排出量を実質ゼロを目指すことを宣言。
 (国は、2050年までに二酸化炭素の排出を全体としてゼロとする脱炭素社会の実現を目指すことを宣言)

ゼロカーボンとは

二酸化炭素排出量から森林などによる吸収量を差し引いて、『実質的に』ゼロにすること

B) 二酸化炭素排出削減目標を設定

・2026(令和8)年度までに、2018(平成30)年度比で29%削減を目指す。
 (国は、2030年までに2013年度比46%削減を目指すことを表明)



C) RE100エリアの検討

・脱炭素化を目指す「越前市版スマートシティ&フォレストシティ」(北陸新幹線駅周辺エリア)をエリアとして想定

RE100とは

企業が自ら事業の使用電力を100%再生可能エネルギー(太陽光・風力・水力等)で賄うこと



D) 公共施設への太陽光発電設置促進

・2030年までに、設置可能な公共施設の50%に太陽光発電を導入。



(エコビレッジ交流センター)

第4章 計画の進捗管理

- ①計画の進行管理 PDCAサイクルによる管理
- ②計画の推進体制 数値目標の進捗について市環境審議会へ報告、年次報告書の作成

資料編

- ・計画改定の経過
- ・市環境審議会名簿
- ・地区別環境マップ(17地区)
- ・アンケート結果
- ・用語説明

越前市ゼロカーボンシティ宣言案

近年、世界各地で猛暑や豪雨など、地球温暖化が原因とみられる異常気象による災害が多発しており、気象危機とも言うべき極めて深刻な事態により、人々の生命や財産が脅かされ、生態系に甚大な影響が及ぶことが懸念されることから、地球温暖化対策の推進が求められています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前からの平均気温上昇の幅を2度未満とし、1.5度に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、この目標達成に向け、我が国も令和2年10月に「2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする」ことを宣言しました。

越前市は、1500年の歴史を誇る伝統産業から先端技術産業まで幅広い産業が集積する北陸有数のモノづくり都市として発展を続けるとともに、コウノトリが舞う里山を市民との協働により守り続けてきました。

また、北陸新幹線越前たけふ駅周辺の新たなまちづくりでは、DXや再生可能エネルギーの導入推進等により、持続可能な経済と環境が両立する「越前市版スマートシティ&フォレストシティ」の実現を目指しています。

本市は、かけがえのない地球環境を次世代に引き継ぐため、本年度に市環境基本計画を見直すとともに、2050年ゼロカーボンシティの実現に向けた取組を着実に進めていくことを宣言します。

令和3年8月 日

越前市長 奈良 俊幸

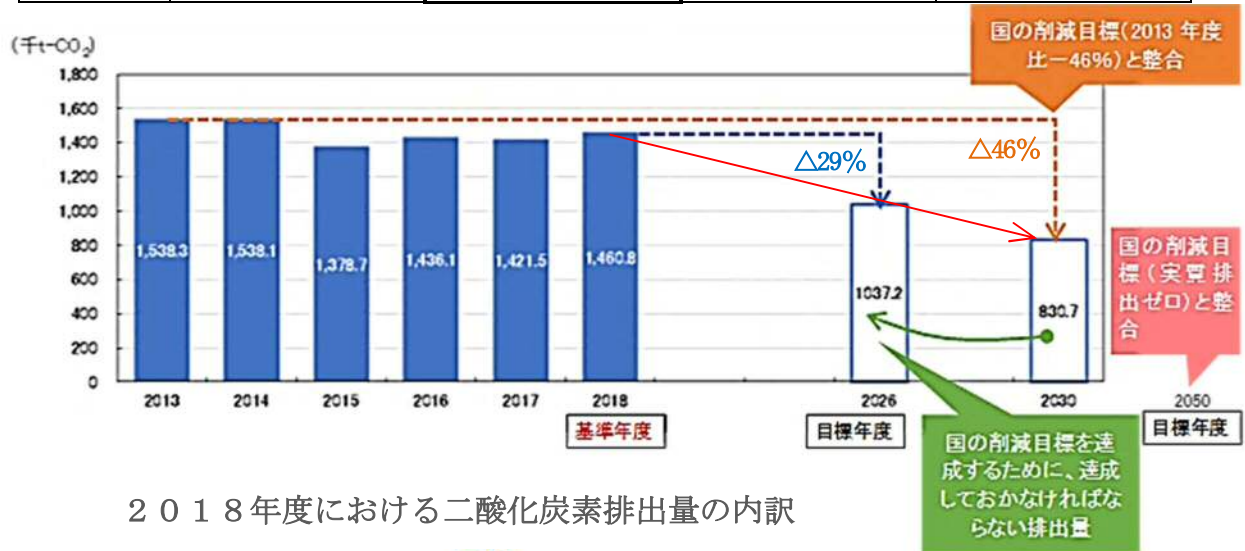
2050年 ゼロカーボンシティの表明について

脱炭素社会の実現に向けた取組みについては、現在改定を進めている市環境基本計画に重点項目として位置付け、5つの基本方針のひとつである「(仮称)脱炭素社会の実現に向けた都市づくり」において、具体的な施策や数値目標値等を示します。

◎ 越前市の二酸化炭素排出量

区分	基準	改定計画期間(5年間) 2022~2026		
		市計画目標	短期目標	長期目標
年度	2018	2026	2030	2050
排出量	1,460.8	1,037.2	830.7	0
	算定最新年度	2018年度比 △29%	2013年度比 △46%	2013年度比 実質ゼロ

(単位:千t-CO₂)



ガスや灯油、石油などの
電力以外由来のCO₂排出量
800.3千t-CO₂ (55%)



電力由来のCO₂排出量
660.5千t-CO₂ (45%)

◎ 脱炭素社会の実現に向けた取組みのポイント

